



南東方面から一ノ瀬城、一ノ瀬館を望む

## ～名門、豊田氏の拠点～

### 【城郭データ】

遺跡名：一ノ瀬城（一ノ瀬館）

時代：〔館〕平安時代～

〔山城〕鎌倉時代～室町時代

城主：〔館〕豊田輔平ほか〔山城〕豊田種貞ほか

主な遺構：〔山城〕堀切、腰曲輪、切岸

登山条件：一ノ瀬館跡から登山口へ

所在地：豊田町大字殿敷字一ノ瀬

## 一ノ瀬城を知る

### 【一ノ瀬城・一ノ瀬館の概要と特徴】

豊田盆地から丘陵を挟み東側、山に囲まれた自然の要害の地に一ノ瀬はある。豊田氏は大内氏と厚東氏に並び長門地域の名門で、館は豊田氏2代の輔平が、山城は11代の種貞が整えたとされる。

館の詳細は不明。山城は盆地西側の丘陵頂に立地。地形に沿って南北に細長く、西側の豊田盆地を見通す。

豊田氏は13代種藤の時に、大内氏の進攻に備え豊田盆地のそばに城と館を移したとされる。



【一ノ瀬（豊田氏）館想像図〔現地看板より〕】

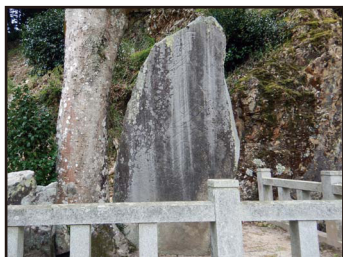
周囲を山地に囲まれ、河川により開かれた盆地の僅かな平坦地に一ノ瀬館があったとされる。しかし、かつて山口県により遺跡調査されたが、詳細は見つからなかった。

歴代の中で最も更盛を誇ったのが11代種貞の時。名門豊田氏の品格を備えた人物と思われる。



## 一ノ瀬城・一ノ瀬館のあるところ～豊田氏本貫地

一ノ瀬は山間部を木屋川の支流、日野川がとおる盆地にあり、東は現美祢市に通じる。豊田氏は当初、東の厚東氏を抑えるため、豊田盆地より東のこの地に拠点を築いたと想定される。



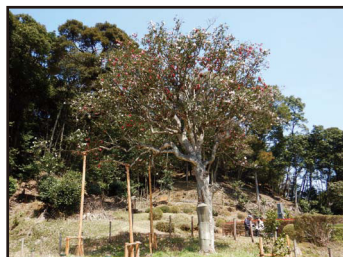
A. 12代種長を供養するための巨大な石碑。梵字で「弥陀」「不動」の意味が刻まれる。下関市有形文化財に指定。



B. 豊田種長供養板碑の南側には現在業師堂がある。この付近には11代豊田種貞以来の菩提寺、長願寺があったとされる。



C. 一ノ瀬城の東側が、盆地の中で最も広い平坦部。ただし、その痕跡は見つかっておらず、現在石碑があるのみ。

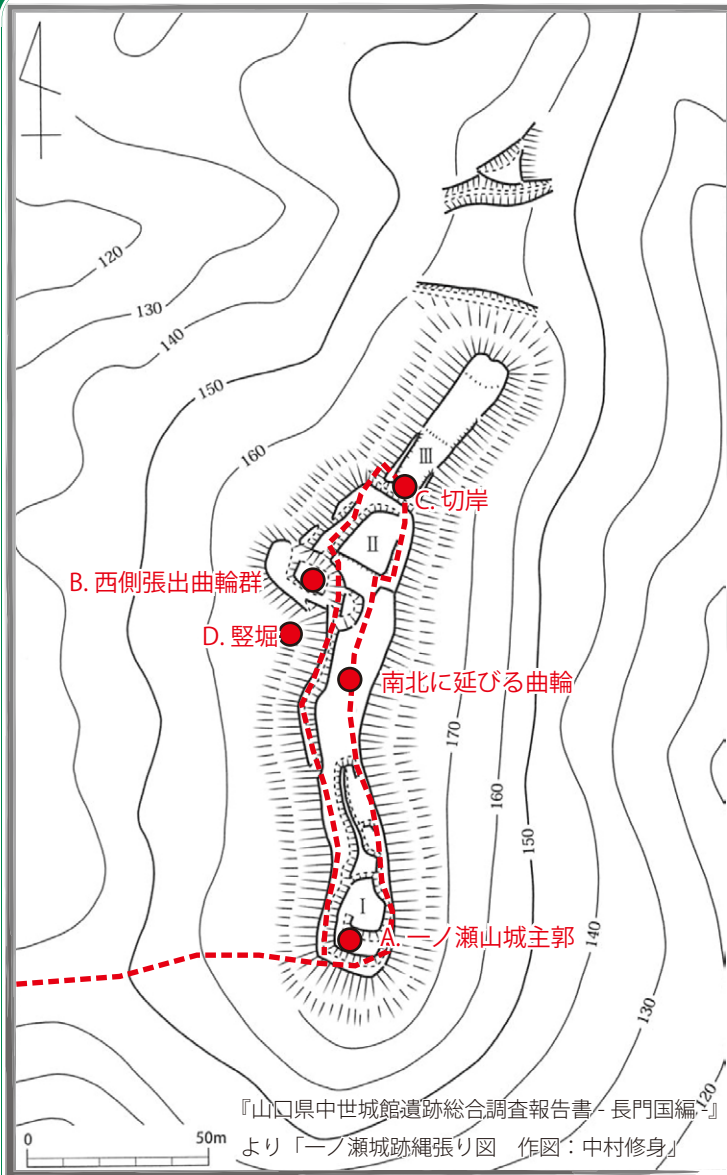


D. 一ノ瀬館跡の片隅にはかつて、「館ヶ浴のツバキ」があった。現在は強風で折れ、その子種が芽を吹き育つ。

### 【アクセス】

道の駅よりホテルの里ミュージアムに接する北側道路を南下。峠を越えると一ノ瀬集落。館ヶ浴の駐車場にて下車後、徒歩で登山口へ。





### 【一ノ瀬城の縄張り】

周辺を山塊に囲まれる丘陵地ではあるが、西側の豊田盆地から東側の美祢方面までを見渡すことができ、特に最も標高が高い主郭部は眺望が効き、豊田氏の城地選びの妙が冴える。

記録上鎌倉時代の築城とされるが、同時代の山城と比して曲輪の空間が広いことが特徴。全体に付属する施設は然程なく防御性が高いとは言えないのは、時代的な特徴と思われる。ただし、中央よりの西側に張り出す曲輪群や切岸に防御を集中させている。

本城は南北朝期、13代種藤の時に本拠の役割を終えたとされるが、一部後世の要素である豎堀なども残るため、要衝として再利用されていたと思われる。



A：南北に延びる丘陵南端にある主郭。東側の館から西側の木屋川まで見通す。



B：中央より西側には連続して小規模な曲輪が設けられる。



C：南側の長大な曲輪と北側の曲輪を大きく分断する切岸。



D：時期が新しい要素の「豎堀」が一部残る。後世再利用された可能性がある。

## 一ノ瀬城を攻める！



館跡前の日野川はホタル観賞、桜並木鑑賞のスポットとしてもおススメ。



豊田町文化協会をはじめ郷土史家の方々が詳しく研究を進めています。

## もっと一ノ瀬城・一ノ瀬館を知りたい…

### 【参考となる資料】

- ・「日本城郭体系第14巻」（1980）新人物往来社
- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」（2017）山口県教育委員会
- ・「目で見るふるさと豊田の歴史と文化」（1999）豊田町教育委員会
- ・「豊田のふるさと誌」（2011）豊田町観光協会・豊田町文化協会

### 【参考となる場所など】

- ・豊田町文化協会ほか  
郷土史関係の冊子刊行のほか、歴史に詳しい方のお話も聞けます。
- ・豊田町文化財資料室（豊田図書館内 Tel: 766-3479）  
一ノ瀬城をはじめ豊田町域の山城縄張り図展示。そのほか歴史資料もあります。